

コロンビア月例報告（5月分）

外交・内政状況

2017年7月

在コロンビア日本国大使館

E-mail : info@ba.mofa.go.jp

I 概要

【内政】

- 3日 FARC離反兵による国連職員の誘拐
- 4日 大統領支持率の発表
- 5日 労働大臣の辞任
- 7日 FARCによる武装放棄の開始
- 8日 ストライキの活発化
- 10日 FARC政党の国會議席に関する法律の成立
- 9～11日 FARCとELNによる会合（於：キューバ）
- 17～31日 ELNとの和平交渉第2ラウンドの開催
- 19日 海軍司令官の死去
- 25日 クリスト内務大臣の辞任
- 26日 ファースト・トラック期限の延長
- 29日 FARCによる武装放棄期限の延長

【外交】

- 3日 薦浦外務副大臣の当国訪問
- 3～5日 国連安保理コロンビア訪問ミッション
- 8日 モレノ・エクアドル新大統領の当国訪問
- 9～11日 オルギン外相のペルー訪問
- 16日 駐ベネズエラ・コロンビア大使の帰任延期
- 17～19日 サントス大統領の米国訪問
- 19日 ピンソン駐米大使の辞意表明
- 23～24日 サントス大統領及びオルギン外相のエクアドル訪問
- 30～31日 メメディヤロフ・アゼルバイジャン外相の当国訪問
- 31日 オルギン外相のOAS外相会合参加

II 本文

【内政】

1 F A R C離反兵による国連職員の誘拐

3日、コロンビア人国連職員がゲアビアーレ県において、F A R C離反兵の集団であるF A R C第一戦線により誘拐された。

2 大統領支持率の発表

4日発表されたギャラップ社の世論調査において、サントス大統領の支持率が26%となつた。

3 労働大臣の交代

5日、クララ・ロペス労働大臣が、既に3月21日に辞表を提出していたことが公表され、同日、同大臣が辞任した。辞任理由は、大統領選出馬のため。ロペス大臣は、左派政党P D A党所属であるが、中道寄りのサントス政権に労働大臣として入閣したことにより、党内の多数のより強硬な左派から非難されていた。そのため、同党の大統領候補となることができなかつたため、より中道寄りの左派勢力を結集した上で、大統領選に出馬したいとの意向を示していた。

後任の労働大臣には、グリセルダ・レストレボ貧困家庭補助公庫監督庁長官が任命された。

4 F A R Cによる武装放棄の開始

7日、約7,000個と登録されているF A R Cの武器のうち、最初の1,000個の引渡しが行われた。

5 ストライキの活発化

8日より全国でストライキが活発化した。8~26日、チョコ県においてキブドーからメデジン及びペレイラを結ぶ道路建設を要求するストライキが行われた。8日、ウーバー(Uber)に反対するタクシー運転手によるストライキが全国主要都市で行われた。11日より、政府による給与増の不履行等を理由に教職員によるストライキが開始された。16日より、ブエナベントウーラにおいても、上水道の未整備等の劣悪な公共サービスや劣悪な治安を理由に、ストライキが開始された。

6 F A R C政党に対する国會議席保証等に関する憲法改正法の成立

10日、F A R Cの政党が上下両院において10議席を得ること等を規定する憲法改正法が成立した。

7 FARCとELNによる会合（於：キューバ）

9～11日、キューバにおいてFARCとELNの指導者達が会合を開催し、和平プロセスの共有等につき意見交換した。

8 ELNとの和平交渉第2ラウンドの開催

17～31日、エクアドルにおいて、コロンビア政府とELNの和平交渉第2ラウンドが開催された。

9 海軍司令官の死去

19日、ボゴタ市において、コロンビア海軍司令官であるレオナルド・サンタマリア海軍大将が、突発性の心臓発作により死去した。サントス大統領及びビジェガス国防大臣が弔意を表明した。

10 クリスト内務大臣の辞任（閣僚リスト別添）

25日、クリスト内務大臣は、サントス大統領の慰留にも拘わらず、大統領選出馬のために辞任した。クリスト内相は、自由党の大統領候補となることを希望していたが、同党では、デ・ラ・カジエ前和平交渉団長及びファン・マヌエル・ガラン上院議員も有力であったため、党内での候補者争いに勝つ必要がある状況下、クリスト内相は、同党の40人の議員から、辞任して大統領候補となるよう要請されていた。

サントス大統領は、後任の内務大臣に、ギジェルモ・リベラ内務次官を任命した。同新内務大臣は、（洪水被害のあった）プトゥマヨ県モコア市生まれ。2002～2014年までプトゥマヨ県選出の自由党下院議員であった。2016年より内務省政務担当次官を務めていた。

11 ファースト・トラック期限の延長

26日、コロンビア政府は、和平実施関連法案の国会審議におけるファースト・トラックの期限を、5か月間延長することを決定した。

12 FARCによる武装放棄期限の延長

29日、サントス大統領はテレビ演説にて、国連及びFARCとも合意の上で、FARCによる武装放棄期限を延長する旨発表した。

FARCによる武器の引渡しは、予定されていた5月30日に終了するのではなく、20日後の、6月20日に終了すること等が決定された。

なお、和平合意フォローアップ委員会は、大部分の集住地域は「訓練・再統合地域空間」(Espacios Territoriales de Capacitacion y Reincorporacion)として村落のような形態で残されること、及び政府、国連及びFARCは、900カ所以上のFARC隠し武器

庫にある武器及び爆発物につき、6月1日より3か月以内に破壊することに合意し、9月1日までに発見・処理されなかった隠し武器庫の中身については、政府がその措置を決める裁量を有することを発表した。

【外交】

1 蘭浦外務副大臣の当国訪問

3日、蘭浦外務副大臣が当国を訪問し、ラコトゥール商工観光大臣及びロンドニヨ筆頭外務次官等と会談した。

2 国連安保理コロンビア訪問ミッション

(1) 3～5日、国連安保理が、和平プロセスの視察のためにコロンビアを訪問した。3日夜、安保理メンバー国の代表団がコロンビアに到着し、フランシスコ・エチェベリ外務次官（マルチ担当）、エンマ・メヒア・コロンビア国連大使及びジャン・アルノー国連コロンビア・ミッション代表により出迎えられた。

(2) 4日、安保理代表団は、サントス大統領及びオルギン外相との会談を行い、更に、他の閣僚も参加した拡大会合を行った。サントス大統領及びオルギン外相は、和平プロセスの現状について説明した。

会談後、記者会見が開かれ、サントス大統領は、安保理の訪問を感謝するとともに、「今次訪問は、我々の和平に対する安保理及び世界による支持の再確認を意味する」と述べた。

また、外務省において、安保理代表団と国会議員との会合が開催され、オルギン外相及び安保理議長国のウルグアイの大使が共同議長を務めた。

(3) 5日、安保理代表団は、メタ県にあるFARC集住地域「ビスタ・エルモーサ」を視察した。

3 モレノ・エクアドル新大統領の当国訪問

8日、モレノ・エクアドル次期大統領（同日時点で未就任）が当国を訪問し、サントス大統領及びオルギン外相と会談した。モレノ新大統領は、エクアドルで行われているコロンビア政府とELNとの和平交渉への支援を継続する旨表明した。

4 オルギン外相のペルー訪問

9日、オルギン外相はペルーを訪問し、エクアドル、ペルー、ボリビアの各外相出席の下、アンデス共同体（CAN）の議長国をエクアドルに引き継いだ。

10～11日、ペルー訪問中のオルギン外相は、中南米各国駐箚のコロンビア大使との会議に出席した。

5 駐ベネズエラ・コロンビア大使の帰任延期

16日、オルギン外相は、コロンビアに帰国中の駐ベネズエラ・コロンビア大使は、当面ベネズエラには帰任しない予定である旨発表した。

6 サントス大統領の米国訪問

17～19日、サントス大統領はオルギン外相とともに米国を訪問した。18日、サン
トス大統領は、上下両院の議長と会談し、米・コロンビア企業家サミットを主催したほか、
トランプ大統領と首脳会談を行った。首脳会談後、共同記者会見が行われ、サントス大統
領は、FTAを更に活用して、双方向の貿易量を増加させ、両国民の利益とすることができる旨述べたのに対し、トランプ大統領は、米国は、麻薬ネットワーク及びコカの栽培を
撲滅するというコロンビアの戦略を支援する用意がある旨述べた。

19日、サントス大統領はペンス副大統領と朝食会を行い、ペンス大統領は8月にコロ
ンビアを訪問したい旨述べた。また、サントス大統領はバージニア大学における子息の卒
業式に出席し、演説を行った。

7 ピンソン駐米大使の辞意表明

19日、ピンソン駐米大使が辞意を表明した。ピンソン駐米大使は国民統一党の大統領
候補となることに関心を示していた。これを受けた22日、サントス大統領はカミロ・レ
ジェス・ロドリゲス元外相を後任に任命した。

8 サントス大統領及びオルギン外相のエクアドル訪問

23～24日、サントス大統領及びオルギン外相は、モレノ・エクアドル大統領就任式
出席のためエクアドルを訪問した。23日、オルギン外相は、エスピノサ・エクアドル外
相と会談し、エクアドルで行われているコロンビア政府とELNとの和平交渉につき協議
した。24日、サントス大統領及びオルギン外相は大統領就任式に出席した。

9 メメディヤロフ・アゼルバイジャン外相の当国訪問

30～31日、メメディヤロフ・アゼルバイジャン外相が当国を訪問し、30日、サン
トス大統領及びオルギン外相と会談した。両外相は第4回政策協議を実施した。

10 オルギン外相のOAS外相会合参加（於：米国）

31日、オルギン外相は、米国で開催されたOAS外相会合に参加した。オルギン外相
は、ベネズエラ問題に関し、同国の与野党が国民的大合意を達成する必要がある旨述べ